

外は氷点下でもハウス内は非常に暑く、日光が差し込むと、室温が30度近くなる中で切り替え作業が続きました。コートを着てハウスに向かい、中ではシャツ一枚で作業をするということも多くなりました。昨年の8月に猿払村に来たばかりの私にとって、東京の夏を思い出す暑さです。そんな予想外の高温に苦戦しつつ、イチゴのベッドは少しずつ完成



イチゴ栽培に向けて

協力隊 塚田治幸

3月上旬、約1か月かけて野菜の畑をイチゴ用のベッドに切り替えました。イチゴは高設ベンチの上で育てるため、いわゆる「畑」とはまったく違います。現在はハウスの地面全体をシートで覆っているため、少し前まで野菜を育てていた畑だったとは思えない様子となっています。



に近付いていきました。そうしてすべての準備が終わった時、言葉にできない達成感がありました。準備完了から間もなく、たくさんの方が届きました。遂にイチゴ栽培のスタートです。植えてから数日間は、しっかり根が張るまで注意深く管理する必要があります。また、イチゴは病害虫が発生しやすい作物なので、栽培の全期間で対策が必須です。初回の栽培である今回は野菜と同様、まずはしっかり作ることを目標に頑張ります。野菜に続き大成功となるよう、スタートから気を抜かずにいきたいと思っています。

最北村につき

地域おこし協力隊の挑戦

さるふつギャラリー

Photo by Tomoya



おおきなあれ

協力隊 春日井さつき

3月11日、鬼志別保育所と浜鬼志別保育所にて、年長児のお別れ会が開催され、カメラマンとして写真撮影に伺いました。1年間、保育所に通う子どもたちの成長を追いかけながら撮影してきましたので、思い入れもひとしお。きりんさんやひまわりさんの年長児は、この1年でとても成長したように思います。

ひらがなが書けるようになった子、はさみを上手に使えるようになった子、足が速くなった子、小さい子どもたちのお世話ができるようになった子。大きくなったみんなの姿を見て、お別れ会では、撮影をする私も感動してウルウルしてしまいました。

小学校でも、たくさん遊んで、たくさん勉強して、大きく育ってほしいと思います。



ちち牛乳と肉の館から

協力隊 飯田大志

今回は、さるふつアイスを紹介したいと思います。さるふつアイスの味は全部で6種類あり、どの味も濃密さと甘さ控えめで滑らかな舌触りが特徴となっています。村民の皆さんも、色々な味を食べ比べて、ぜひ自分の一番を見つけてみてください。

